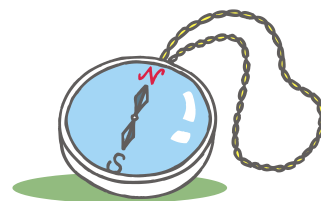


羅 針 盤

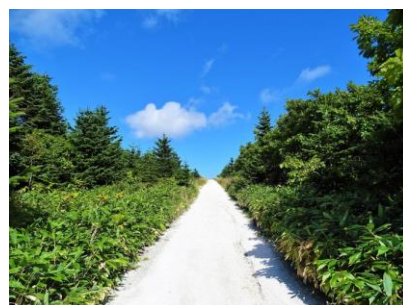
第 **39** 号

令和6年3月22日（金）



◆ 「僕の前に道はない、僕の後ろに道は出来る」

「僕の前に道はない、僕の後ろに道は出来る」これは、芸術家である高村光太郎の言葉です。人が敷いてくれたレールの上を歩くのではなく、何もないところを自らの力で歩いていく、自分で開拓していくんだという彼自身の強い決意を感じとることができる言葉です。高村光太郎の父は、高村光雲という日本を代表する彫刻家です。高村光雲の作品として有名なものには、上野恩賜公園にある西郷隆盛像や、日本彫刻の傑作である東京国立博物館に展示されている「老猿（ろうえん）」などがあります。偉大な彫刻家を父として持った光太郎は自身も彫刻家への道を志します。彼は、幼いころから彫刻に親しみ、長男でもあったため、当たり前のように家業を継ぐと考えていたのです。すでに将来の道がつくられていたのです。ところが、彼はある時期から父である光雲に反発心を抱くようになります。多くの弟子を持ち、弟子に粗彫り（あらぼり）させてから作品を仕上げていく受注生産型であった父の彫刻家としてのスタイルは、芸術家本来のスタイルを望む光太郎とは異なるものでした。光太郎は、父に対する尊敬の念を抱きながらも、「父とは違う道を歩まねばならない」と考え、父との決別とともに、自分の道は自分で切り拓いていこうと決意したのです。戸惑いながらも道なき道を前へと進み、そして振り返ったときに「ああ、こうやって進んできたんだ」と思える道が出来ていることは何事にも代え難い自信となるはずです。挑戦し続ける気持ちを忘れずに前へ前へと進む人に成長していつてくれることを期待しています。



◆ 春の目覚めとともに！

二十四節気（にじゅうしせっき）では、立春（2月4日）から始まり、2月19日に雨水（うすい）、そして、3月5日の啓蟄（けいちつ）と季節が進みゆき、一昨日には春分の日（3月20日）を向かえました。因みに、雨水は、雪から雨へと変わり降り積もった雪も溶け出す頃という意味で、啓蟄は、大地が温まって冬ごもりから目覚めた虫が穴をひらいて顔を出す頃という意味です。3月も後残りわずかとなり、暖かな日差しに春の訪れを感じる季節です。1、2年生の皆さんは、それぞれ進級し、4月からはまた新たな出会いとともに、自分に与えられた役割を最後まで遂行できるよう、より良いスタートをきる準備をしっかりとしておきましょう！

本日、無事に修了式を終えることができました。明日より、2週間の春休みに入ります。ご家庭でも、健康には十分な注意を払いながら、子どもたちが規則正しい生活を過ごせますよう、ご指導をお願いいたします。また、来年度も引き続き、校長室だより・羅針盤を定期的に発行する予定をしています。城陽中学校の全ての子どもたちのために、よりよい教育活動を展開していく道標となるよう、更なる研鑽を積んで参りますので、変わらぬご支援を賜りますようお願いいたします。（校長 坂井伸治）

